

福島市公共事業評価委員会（第44回） 議事要旨

- 開催日時 令和6年2月7日（水） 午後3時～4時40分
- 場 所 福島市役所 4階 庁議室兼防災対策室
- 出席委員 6人
川崎 興太（福島大学共生システム理工学類 教授）
市岡 綾子（日本大学工学部建築学科 専任講師）
渋谷 順子（福島商工会議所 議員）
後藤 由美子（福島県建築士会福島支部 理事役員）
駒田 晋一（弁護士）
渡辺 明美（一般社団法人アイプロデュース 代表理事）
- 事務局 政策調整部長、同部次長、政策調整課長、同課課長補佐兼総合計画係長、同係員
- 担当課 幼稚園・保育課長、同課課長補佐兼幼保企画係長、同係員
下水道建設課長、同課課長補佐兼計画係長、同課建設第一係長、同係員
- 会議次第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 委員自己紹介
 - 4 本日の会議について
 - 5 委員長及び職務代理者の選出
 - 6 議 事
 - (1) 評価対象事業の審議について
 - (2) その他
 - 7 閉 会

議事要旨

(1) 評価対象事業の審議について

■もりあい認定こども園（仮称）整備事業

○担当課より資料に基づき説明

○質疑応答

Q1. 今回の整備により、森合地区にはどのくらいの保育園等が集約されるのか。

A1. 今回の整備は、施設の集約化ではなく、森合幼稚園の建て替えになる。

Q2. 幼稚園の建て替えということは、現在の幼稚園の時間帯の方が通園するのか。

A2. 新たな施設は保育と教育の機能を併せ持つ認定こども園なので、7時～19時の預かりを行う。

Q3. こどもの送迎は安全に計画されているのか。

A3. 予定地の南半分は公園との共用駐車場になる。安全面も考え、必ず駐車場に入って送迎してもらう予定。

Q4. 新たな施設には、子どもがお昼寝をする部屋は確保されているのか。

A4. 0～3歳は各保育室、4歳以上は遊戯室で午睡する予定。

Q5. 民間施設からの陳情の内容とはどのような内容か。

A5. 幼稚園への入園児が減少する中、新しい施設に集中してしまうのではないかと。休日保育や病児保育等を行い、付加価値のある施設を整備していくこと等を説明して理解を得た。

Q6. 土日保育が必要という方もいると思うので、そこをカバーできるのであれば、新しく作る価値はあると思う。

最近では、発達障がいの子どものための保育の需要も高まっており、親は多くの不安を抱えていると聞く。資材高騰の中でも建てる必要があるのであれば、今は保育の質が求められるので、質の高いインクルーシブな保育が提供できる施設にしていきたい。

A6. 発達障がい等の有無に関係なく育てられるような環境の提供に向けて、公立がベーシックな教育・保育を行って、実践と検証を重ね、私立の皆さんにも広めていく、それが公立の役割だと考えている。

保育では、特定の施設の入所を希望しても入れない状況があり、市も頑張っって潜在的待機の解消に努めながら、保育の質の向上にも寄与していきたい。

Q7. インクルーシブについては、子どもだけでなく親や地域等関わる人を広く捉えて考えてもらえるといい。

それにより施設整備に投入する費用の価値が上がるのではないかと。

また、公園の中に整備するということで保育として魅力的であり、子育ての息抜きの場にもなる。周辺の公園等とも一体的に立地する施設として考えてほしい。

A7. 今回は占用で整備することもあり、公園と一体的に考えていきたいと思っている。園庭だけでなく、多目的広場やふたつやま公園も活用する。地元との交流も目指したい。

- Q 8. 事業費は解体費等すべて含めていると思うが、駅前再開発が見直される状況下で、民間事業者の感覚から考えると、かなり高額に感じる。
- A 8. 新たな施設の定員は110人としている。その他の機能として、病児保育の部屋、一時預かりや誰でも通園制度等に対応できる枠をもつ施設を計画しており、積み上げると、昨今の物価高騰等の影響から、当該事業費となる。
床面積の縮小や構造を平屋にするといったことで、コスト削減に取り組んだ。
- Q 9. 物価高騰もあり、ダウンサイジングをしても限界があるのは分かる。
既存の幼稚園を修繕して使用することは検討しなかったのか。
小学校の空き教室を活用する検討はしたか。
- A 9. 既存のまま使用するとしても、耐震化や調理室の増設、定員増に伴う増築等が必要。
様々検討したが、幼稚園からこども園として転換するにはコストがかかる。
また、人が多い地域であり、活用できるような公共施設は無かった。
- Q10. 福島市の公共施設は老朽化が結構進んでいる。人口減少の状況下、一つの施設に投じる予算を考えるにあたり、修繕や解体、再建築するといった全体的な公共施設の計画に触れる必要があるのではないか。
- A10. 公立の保育施設等は、昨年度に「市立幼児教育・保育施設のあり方指針」を定め、再編成を検討している。
老朽化が進む中、今まで全く手を付けてこなかった部分である。これから再編成を進めていくが、必要とされる保育のすべてを公立の施設でまかなうことはできない。需要が高い地域については、民間で整備をするということも市としては視野に入れ、全体の中で統廃合や再編をする必要があると考えている。
- Q11. 今回の事業費を考えると、老朽化している施設の改築(修繕)に回した方が有効なのではないか。
- A11. 子どもの数は減っているが、未就学児の保育申し込み率は上がっている。
現在の未就学児約1万人のうち、半分以上が保育機能を活用している。
保育を待っている保護者の方が多く、スピーディーに実施する必要があると考えている。
コスト縮減は今後も考えていきたい。
保育の環境は、国の政策一つで変わることもある。それを念頭に、将来的に長く使える施設を考えていかなければならない。また、複合的に、幅広く活用できる施設にしていきたい。
- Q12. 郊外の公立幼稚園は園児が少なくなっていて、そういうところは廃止してコスト削減ができると思われ、また、人口密集していて保育を必要とする人が集中する地域もある。森合地区は継続的に入ってくる地域と思う。
- A12. 統廃合については、民間の方々が市の子供たちの将来のため経営を続けていかれるよう、公立の再編計画を作っていく形で進めている。一方、公立しか保育機能がないような地域では、一部セーフティネットの機能を維持しつつも、老朽施設や狭小な施設等を集約していく考えである。
一部市立幼稚園では、定員に大きく届かず、保護者の皆さんのお気持ちはあるけれども、集団の中で保育できないという子供の育ちの心配もあり、4歳児の募集停止をしている施設もある。
- Q13. 事業費が今以上に膨らむことは無いのか。
- A13. 将来の物価高騰の影響で、契約の中で変更が生じる可能性はある。

○審議のまとめ

- ・新規着手について認めるということで、まとめたいと考えるがいかがか。
（「異議なし」の声）
- ・市に対する意見具申については、委員長一任の下で進めさせていただいてよろしいか。
（「異議なし」の声）

■信夫山幹線雨水渠整備事業（祓川）

○担当課より資料に基づき説明

○質疑応答

- Q1. 森合のアンダーパス部分の冠水問題は解消されるのか。
A1. 完成すれば、ある程度の解消は見込める。
今後、道路管理者である福島県と、祓川に圧送しているポンプ能力の増強等に関する協議を行っていく。
- Q2. 今回の整備区間を整備すれば、浸水被害は解消されるのか。
A2. 下流側の整備済み区間では浸水被害が発生しておらず、今回の区間についても整備することで浸水被害の軽減が図られるものと考えている。
- Q3. 文化センターの前あたりだと祓川が地下に埋っているのか。工事完了後に雨水が流れても大丈夫なのか。
A3. 地下に3.6m×3.6mのボックスカルバートが埋設されており、上部は水をくみ上げて、せせらぎとして景観を良くしている。工事完了後の雨水を流しても十分な流下能力がある。
- Q4. 起債対応はするのか。
A4. 活用する予定。
- Q5. 耐用年数は何年か。
A5. 通常コンクリート製品は耐用年数50年であるが、ライニング工法等を用いて延命化を行うことを想定している。
- Q6. シールド工法は今後も積極的に採用していくのか。
A6. 工期短縮を図れるメリットがあるが、費用対効果や地理的要因等を含め、総合的に判断して工法を決定していく。
- Q7. シールド工事を進めていく途中で大きな岩等があった場合、工事を進めることは大丈夫か。
A7. 今回の工事区間では、岩が途中にあっても掘削可能な機械（シールドマシン）を選定しており、進捗率は落ちるが岩掘削は可能である。

○審議のまとめ

- ・新規着手について認めるということで、まとめたいと考えるがいかがか。
（「異議なし」の声）
- ・市に対する意見具申については、委員長一任の下で進めさせていただいてよろしいか。
（「異議なし」の声）

(2) その他

事務局より以下の説明

- ・本日の審議結果を受け、福島市公共事業評価実施要綱に基づいて市の対応方針を速やかに決定する。
- ・本委員会の評価結果と対応方針、議事要旨については、市のホームページにより公表する。